

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会

第2回在宅医療介護推進部会 会議録

開催日時	平成28年8月8日（月）午後2時00分から午後4時00分
開催場所	生駒メディカルセンター 3階研修室
出席者 （委員）	有山部会長、山口委員、嶋司委員、片岡委員、中溝委員、倉本委員、高山委員、世古委員、吹留委員、工藤委員、井上委員、吉藤委員、加藤委員、田中委員、辻村委員、橋本委員
欠席者	林副部会長
オブザーバー	今西郡山保健所健康増進課長
事務局	影林福祉健康部長、増田福祉健康部次長、石田病院事業推進課長、島岡高齢施策課長、渋谷地域包括ケア推進室包括ケア推進係長、近藤健康課長、竹本健康課課長補佐、㈱地域計画建築研究所大河内・中井
生駒市医師会	中畑事務長、土橋事務局次長
傍聴	1名
案件	（1）資源集に関する事前調査結果について （2）意見交換（グループワーク） （3）視察研修について （4）その他
資料	資料1 資源集調査票 資料2 医療介護連携資源集（例） 資料3 医療介護連携資源集スケジュール（案） 資料4 視察研修について
議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
部会長	1 開会 ・委員紹介 ・配布資料確認 2 案件 （1）資源集に関する事前調査結果について ・事務局より、資料1・2・3に基づき説明 資源集のスケジュールでいきますと、次回、第3回の部会で事業所ごとに項目について協議をして、資源集運用等の協議、それから発送用の調査票の提示というところから、今年度末には資源集の印刷に入っていきたいというような計画であります。今回、調査票の調査項目についてみなさんからたくさんの項目のご提案がありましたが、その中で、医療と介護が連携していく上で必要な項目もある

	うかと思ひますし、もしくは連携する中でこの項目はあまりいらぬんじゃないかなという項目もあるかと思ひます。次回の部会ではそのあたりを協議していただくと思ひておりますが、特にご自身の所属以外のカテゴリーの項目を見ていただいて、これが必要かどうかということを決断していただきたいと思ひます。例えば、介護関係の事業所の方でしたら、医療機関と連携する上で医療機関の項目の中で、こういった項目がもっと必要だとか、こういった項目はいらぬというところを、次回の部会までにお考へいただけたらと思ひます。 いろいろ中を見ていますと、必要な項目だろうとは思ひますけれど、連携をしていく上ではここまでの情報は必要ないんじゃないかなというところもあるかなと思ひますので、調査項目が多いとそれはそれで調査するのも大変ですし、今日お持ち帰りいただいて、次回までにご検討いただければと思ひます。 先ほど事務局からの説明にありましたように、この資料2の大垣市の在宅医療ネット、一例ですけれども、こういうところを最終的にはインターネットで一般市民の方が見られるように作成していきたいと思ひますが、そこに行きつくまでにはかなり時間と労力がかかりますし、今年度については、先ほど説明のあった大垣在宅医療ネットの資料の後ろのA4の項目というところをある程度の冊子にして、一旦資源集として作っていきなと考へておりますので、さらにその先の運用については、またいろいろ課題があると思ひますので、どうしていったらいいとか、その先よりよい資源集にしていくためにどういうところを追加していったらいいかというところもみなさんにお考へいただいたらというふうにお願ひいたします。 (2) 意見交換 (グループワーク) ・意見交換のまとめ参照
部会長	長時間にわたり、お疲れ様でした。今回は、前回より倍以上の時間を取りましたが、十分な意見交換ができましたでしょうか。言い足りなかつた意見等がございましたら、後でも結構ですので、事務局まで連絡していただけたらと思ひます。次回の部会でも、引き続き意見交換をしてまいりますので、よろしくお願ひします。
部会長	(3) 視察研修について ・事務局より、資料4に基づき説明 せっかくの機会ですから、ここにおられる部会員の皆様にはできるだけ多く出席していただきまして、充実した視察にしたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
部会長	(4) その他 今日の資源集については、項目について連携を図るうえで必要な項目、もしくは、いらぬ項目というところを次回までに考へてきていただき、次回に意見交換する、それと、より良い資源集にするためのご提案等があれば、また次回にご提案いただければと思ひます。 医師会事務局から皆様にご案内があります。

医師会事務局	医師会の事務局です。本日の資料の最後の医師会の封筒に、医師会で企画しています「他職種連携研修会」のご案内を入れさせていただきました。前回、部会長の方からも協力依頼があったと思うんですけども、部会の方々にもご協力をいただいた上で、たくさんの方に出席していただけたらと思いますので、よろしくお願いします。
部会長	普及啓発の事業の一つとして、「他職種連携研修会」を医師会の方で行っております。今回は、歯科医師会の在宅医療への関わり、薬剤師の先生の在宅医療への関わりということを、いろんな職種の方にご理解いただければと思って企画しております。また、１１月でしたら、生駒地区医師会の方では、一般市民向けの健康公開講座で在宅医療についての講演を予定しておりますので、そちらの方も是非お越しください。 それでは、最後に事務局から何かありますか。
事務局	事務局の方から２点報告させていただきます。 まず、会議の会議録についてです。第１回部会の会議録について、お手元に配布いたしております。委員のご発言等につきましては、ご確認のうえ、修正等がありましたら、８月１９日（金）までに、事務局までご連絡をお願いいたします。また、会議録は公表いたしますが、このような形式でよろしいでしょうか。他のネットワーク協議会と認知症の部会がございまして、そちらの会議録に合わせております。 それでは訂正等ございましたら、８月１９日（金）までに、事務局までご連絡をお願いいたします。 次に、次回の部会の開催日ですが、１１月７日（月）の午後２時からを予定しております。皆様のご都合はいかがでしょうか。 それでは、１１月７日（月）といたします。また案内文書を差し上げます。ご参加いただきますようお願いいたします。
部会長	それでは、１０月１３日に視察研修、１１月７日に第３回部会ということで決まりました。 ほかに、何かございませんか。 ないようでしたら、これで第２回在宅医療介護推進部会を閉会いたします。どうも、ありがとうございました。

第2回部会 意見交換のまとめ

部会の 検討項目	主な課題	取 組 提 案	
		提案のタイトル	内容
1 情報共有	(1) 入退院時連携が十分ではない	①入退院時カンファレンスの指針、マニュアル作成	退院調整ルールづくり ・連携の流れ図、情報共有ルール、フローの検討（中和圏域で作成済）。 ・退院半月前にカンファレンスを実施する。 ・退院時共同指導加算、退院退所加算を実施する。 情報提供、共有 ・事前情報を提供、共有した上で会議を開催する。 ・欠席者に情報発信を行う。 情報共有シートの作成 ・提供方法の統一と内容の均質化を図る。 ・医療・介護連携に必要な情報を記載する共通書式（「患者情報カード」「情報共有シート」）を作成する。 ・お薬手帳やカルテの一元化。 両者の窓口明確化 ・医療側（相談員）、介護側（ケアマネ）、窓口を明確にして連携を深める。 参加しやすい工夫 ・医療、介護が参加しやすい工夫（かかりつけ医の診療時間を避けるなど）、現場にあわせた定例化を図る）。
	(2) サービス担当者会議における連携が弱い	②サービス担当者会議における連携強化	在宅を支える3者連携のルールづくり ・①病院、②家族、③介護の連携のあり方を見直す。 ・サービス担当者会議の重要性について研修会を行う。 ・要介護者と支援者の関係を表すエコマップを作成し、支援者の漏れをなくす。 ・ケアマネが医師に相談しやすいようにケアマネタイムを作成する。 在宅を支える情報共有シートの作成 ・「在宅退院情報確認書」「介護サマリー」をもとに、情報共有書式を統一する。 ・入退院時の経過や方向性が把握できる、地域単位で統一した書式を運用する。 居宅介護指示書の活用 ・「居宅介護指示書」を活用して医師とケアマネの連携を図る。ケアマネタイムを有効に活用する。 参加しやすい工夫 ・医療、介護が参加しやすい工夫（かかりつけ医の診療時間を避けるなど）、現場にあわせた定例化を図る）。

部会の 検討項目	主な課題	取 組 提 案	
		提案のタイトル	内容
	(3) 在宅生活を支える連携が弱い	③地域ケア会議における連携強化	地域ケア会議による連携強化 ・定期開催のプログラムを組んで、関係機関の連携を強める。①勉強会、②意見交換会を開催し、顔が見える関係づくりを図る。 ・多職種連携研修の定期開催、かわら版等の発行に取り組む。 ・定例開催、開催時間の工夫により医師や薬剤師が参加しやすくする。 地域包括支援センターの事務支援 ・資料作成や議事録の共有。 ・職種による発表の場づくり。
	(4) 施設、サービス情報の共有が十分ではない	④医療介護連携資源集の作成	資源集の活用 ・生駒市内の資源を把握する。定期的に更新できる体制とする。 ・それぞれの資源の窓口や Key になる人材を把握する。 ・ITC と回覧板などのアナログツールを使い分ける。 情報共有の取組 ・医療職、介護職向けに資源の学習会を行う。
2 相談	中心組織、相談対応のしくみづくり	⑤在宅医療介護連携支援センター(仮)の開設	医療介護連携の総合相談機関 ・医療資源、介護資源をトータルコーディネートできる総合相談機関をつくる。在宅医療・介護連携に係る相談窓口を設置する。 ・総合相談機関に医療介護関係者の連携を支援するコーディネーターを配置する。 ・市や社協に連携担当者を配置する。
3 連携体制	(1) 情報交換のしくみづくり	⑥医療介護を支える連携体制づくり	・多職種連携の事務局や情報共有のルールづくり、ツール更新の体制が必要になる。
	(2) 連携体制づくり		・医療介護連携ネットワーク協議会において連携方針を検討する、協議体を継続して事務局機能を確保する。

部会の 検討項目	主な課題	取 組 提 案	
		提案のタイトル	内容
4 研修、人材育成	研修、人材育成	⑦合同研修、テーマ別研修、職種別研修の実施	連携を促進する合同研修 ・多職種連携（医者、ケアマネ、訪看、事業所）の検討会や研修会。 お互いの状況や役割を理解する チームで支援体制を考える ・医療、介護両分野の合同研修の機会をつくる（ケアマネに限らず、ヘルパー、介護士を含め） テーマ別研修 ・看取りに関わった利用者さんの事例検討会 専門職種別の人材研修 ・医療・介護人材確保について先進的な取組の情報収集を行う ・訪問看護さん講師によるヘルパーさんへの研修 ・病院看護師の研修（県の看護協会の研修への参加） ・歯科訪問診療の研修 ・総合相談窓口のコーディネーター人材養成研修。 ・在宅医の養成研修
5 普及啓発	普及啓発	⑧在宅医療、看取りパンフレットの作成 ⑨広報いこまちを活用したPR ⑩在宅医療、看取り市民フォーラムの開催 ⑪身近な地域向け講演会 ⑫医療のためのエンディングノート作成	啓発パンフレットの作成 ・医療、介護分野の普及啓発事業を一体的に実施する。 ・在宅医療、看取りに係るパンフレットを作成し、窓口や医療機関などで配布する。 広報誌を活用したPR ・在宅医療、福祉連携について広報誌に特集記事を掲載する。往診、訪看、訪介、デイ、家族、当事者等の生活事例を紹介する。 市民フォーラムおよび身近な学習の場づくり ・広報（市町村）、できれば家族も使えるアナログツールを活用する。 ・まちづくり出前トーク（公開講座、寸劇）や地域住民とのシンポジウム、老人クラブ、町内会等の会合に出向き小規模な講演会を行う。 啓発につながるエンディングノート作成 ・地域住民へエンディングノート配布